

☼ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☼
～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

第2回TRPG交流会

7月14日（土）に、第2回TRPG交流会が博多工業高校の図書館で開催されました。

TRPG（テーブルトーク・ロールプレイング・ゲームの略）は、物語を進めるシナリオとルールブックをもとに、ゲーム機などを使わずに、紙や鉛筆、サイコロなどの道具と参加者同士の会話で、自分が設定したキャラクターを使って、空想上の世界を舞台にした物語の謎や課題を解決していく対話型のゲームです。今年は、大雨で交流会が1週間延期になったため参加できなかった生徒もいましたが、参加校が昨年より4校増え、博多工業高校、福岡大学附属大濠高校、東福岡高校、福翔高校、福岡講倫館高校、筑陽学園高校、梅林中学校の計21名の生徒が参加しました。その他、中学、高校の先生、博多工業の卒業生など6名の見学者、昨年度第1回交流会の講師であった熊本の元公立図書館の司書高倉暁大氏も来校しておられました。



（受付で資料を渡すスタッフ）



（挨拶をする博多工業の
図書委員長）



（笑いが溢れる交流会）



（中学生に設定するキャラクター
のアドバイスをするスタッフ）

交流会は、1グループ5名ほどで、博多工業の図書委員など12人のスタッフを中心になって進めました。スタッフは、「クトゥルフ神話」「ポブポブ」「キャット&チョコレート」など、いくつもゲームを準備して、参加者が楽しく交流できるようにしていました。

「クトゥルフ神話」は、グループのメンバーのうち1名がゲームを進めるキーパー、残りがプレイヤーになります。プレイヤーは、自分の分身となるキャラクターを作り、キャラクターの持つ力や武器の種類を設定し、他のプレイヤーと協力して、設定された課題を解決しながらゴールを目指します。「八塩折りの酒」※（やしおおりのさけ）を調べる課題では、グループのプレイヤー全員が館内の本で調べ、課題を解決していました。

※「八塩折りの酒」：須佐之男命（すさのおのみこと）が八岐大蛇（やまたのおろち）を倒す際に用いたお酒。



(額にカードを当て、周りに人の言葉を聞いています。)

「ポプボブ」は、自分が引いたカードの種類を当てるゲームです。

自分が引いたカードを見ないですぐに額に当てるため、自分が引いたカードの種類が分かりません。そのため、お互い言い合う「ボブネミミツミ」「ポプテピピック」の言葉を聞いて、自分のカードの種類を判断していました。簡単なようで意外と自分のカードの種類を当てるのが難しく、「えっ、そのカードだった。」など、驚きと笑いが起きていました。



(話の筋が自然か不自然かの判定の様子)

「キャット&チョコレート」は、中央にあるカードの山から課題となるカードを1枚ひき、その課題を解決するために手札のカードを使って話をつくり、課題を解決していくゲームです。他のメンバーが、カードを使って課題を解決する話が自然だったか、不自然だったかを判定していました。「いいね。それはあるよね。」「それは無理じゃないの。みんなで判定。」など、カードを使って話がされる度に、笑いや拍手が起きていました。



(ゲームの進め方やカードの使い方などを助言するスタッフ)



(見学していた先生や学校司書などがカードゲームを体験)



(スタッフが準備した名札)

交流会に初めて参加する中学生をはじめ、お互い知らない生徒同士ができるだけ緊張せずに、みんな楽しく交流会に参加できるようにするために、名札には学校名や学年、名前を書かずに、ニックネームを記入していました。また、校門前や自転車置き場にスタッフが待機して、スムーズに会場に行けるような心配りもしていました。



(記念写真)



(終わって参加者を見送るスタッフ)

初めて会った生徒同士でしたが、どのグループからも笑顔が見られたのは、きっと、博多工業高校のスタッフが、当日の交流会の運営をはじめ、事前準備をしっかりとっていたからだと思います。最後に、スタッフが参加者を並んで見送っていた姿にも、とても感心しました。

Hello! 学校図書館

《東住吉中学校》

その2



今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

東住吉中学校は、12学級295名の学校です。図書館では、短い時間で本を選べるように配架や表示の工夫をしたり、POPを掲示したりしています。また、情報センターとしていつも新しい情報を提供しています。

中学校の図書委員だけでなく、美術部員が描いた読書感想画を貼るなど、多くの人が、図書館の環境づくりをがんばっていることが分かる素晴らしい図書館です。

○ 本の表紙が見えるような配架の工夫

書架の上に、本の表紙を見せるような配架をして、本を選びやすいようにしています。



(家庭・生活の棚の上に「すしのひみつ」などの本を配架)



(芸術・美術の棚の上に「原寸美術館」などの本を配架)



(新着本コーナーの棚の上に「ラーメンにシャンテリア」の本の帯を付けて配架)

○ ちょっと本を手にとってみたくなるような配架の工夫

書架の中に、読みやすそうな本や読んでみたくなるような本を配架をしています。



(「杉原千畝と命のビザ」の絵本など、本を読むことが苦手な生徒が、手に取りやすい本を配架)



(生徒の興味を引き、読みやすそうな「天才たちのびっくり子ども時代」などの本を配架)



(ちょっと本を手にとって開いてみたくなるような「ご当地キャラずかん」「ニッポンまるかじり」などの本を配架)



(バスケットボールや野球など、部活動に関する雑誌を配架)

○ 表示の工夫



(「ほくのおやつ」の本に「くいしんぼうさんにオススメ」と表示)



(「365人の本屋さん...」の本に「キミの悩みが解決しちゃうかも?!」と表示)



(ミステリー関係の棚に「怖い本」と書き、怖いイメージを与えるような形にして表示)



(「怪盗ルパン」の本に「ミステリー好きに」と表示)



(「モモ」の本に「ロングセラー」と表示)

どんな本を読もうかと迷っている生徒や目的に応じた本を見つけやすくするために、本の内容を短く印象的な言葉で表示しています。

○ 美術部との協力

本を選ぶ参考になるように、美術部員が描いた感想画を掲示しています。



書架に感想画と「中学生にお薦めの本」を掲示をしています。



(吉川英治文学新人賞を受賞した有川浩氏の「旅猫レポート」を掲示)



(産経児童文学賞を受賞した森絵都氏の「カラフル」を掲示)



(星新一の「ポッコちゃん」を掲示)

○ 「中学生にお薦めの本」を掲示



(中学生にお薦めの本として、「島は僕らと」「リリース」などを紹介)

○ 座って本を読みたくするような環境整備



(リラックスして本を読めるようにするためソファを設置)

9月生まれの文学者



西内 ミナミ（にしうち みなみ、本名：西内 南）と「ぐるんぱのようちえん」

1938年9月24日 京都市生まれ

西内氏は、京都市で生まれ、岡山県宇野港外の直島に両親と移り住み、以後宮城県、秋田県などへ父親の転勤で引っ越し、成長期を海山に囲まれた自然の中で過ごしました。

15歳で上京し、都立豊多摩高校から東京女子大学へ進学し、クラブ活動で児童文学を書いていました。そして、大学在学中に「日本児童文学」に旧姓の伊藤ミナミ名で「けちんぼケーチン君」が掲載されました。大学卒業とともにコピーライターとして会社に勤め、出産後転職した先で、アートディレクターで絵本作家の堀内誠一氏から「また絵本を頼まれているけれど、お話を書いてみない。」と、声をかけられたことがきっかけで絵本を書くようになりました。

「ぐるんぱのようちえん」は、ジャングルを出て働きに出たぐるんぱが、どこへ行っても大きなものを作り失敗ばかりしますが、ある時、ぐるんぱが作った大きなビスケットや皿が大変役立つという話です。この作品は1965年に傑作集として出版され、以来ロングセラー絵本となりました。

西内氏は、コピーライターだったことから、文章の読みやすさとリズム感を大事にするとともに、絵本は、作者と画家のコラボがうまくいくと、1+1が3以上になると言っています。西内氏には「こぶたのぶーぶ」「プレゼントはお・ば・け」など多数の作品があります。



阿部 和重（あべ かずしげ）と「ミステリアス・セッティング」

1968年9月23日 山形県東根市生まれ

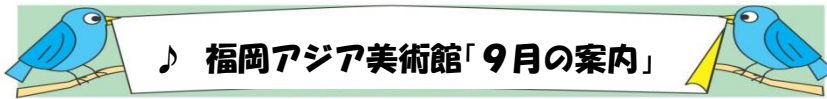
映画監督を目指し日本映画学校（現・日本映画大学）卒業後、演出助手などを経て、1994年に「アメリカの夜」で群像新人文学賞を受賞し作家デビューしました。

阿部氏は、小さい頃に本をしっかりと読んだという記憶はなく、小学校高学年でブルース・リーの「魂の武器」を買って読みましたが、小学生にはとても難しい本でした。他には、漫画や映画雑誌を読んでおり、子どものころから小説より映画が好きで、映画監督になりたいと思っていました。

小説を読むようになったきっかけは、映画学校に入って知りあった友人たちからの勧めや学校の特別講師だった淀川長治氏に「映画を撮るなら映画以外の表現も学ぶべきだ」と言われたからでした。また、学校でシナリオを書く授業があり、夏休みに入ると長いシナリオを書く課題が与えられたことがきっかけで文章を書くようになりました。小説を書き始めたのは、21か22歳の時でした。シナリオにいろいろなものを書きくわえるうちにとても長くなり、言葉のみの表現のおもしろさが分かってきたため、小説を書き始めたそうです。

「ミステリアス・セッティング」は、純真で世間知らずの少女の悲劇を描いた作品です。この作品は、編集者と「次はどうしようか」と、話し合っているときに「次は、携帯とかやってみたら面白いですね。」と、話したことがきっかけで携帯小説としてこの作品が生まれました。

阿部氏の作品は、2005年芥川賞を受賞した「グランド・フィナーレ」の他、「ABC戦争」「アメリカの夜」などあります。



♪ 福岡アジア美術館「9月の案内」

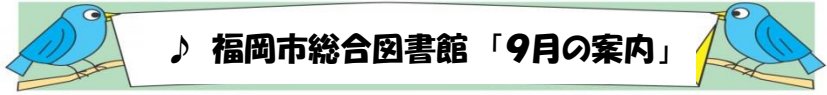


*アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：(9月)

9日(日), 11日(火), 23日(日), 25日(火)

・時間: 11:30 ~ 12:00, 13:00 ~ 13:30

・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「9月の案内」



*毎月のおはなし会

1日(土), 2日(日), 8日(土), 9日(日), 15日(土)
16日(日), 22日(土), 23日(日), 29日(土), 30日(日)

・時間 土曜日: 1日, 15日

14:30 ~ 14:45 赤ちゃん向けおはなし会

14:50 ~ 15:10 幼児向けおはなし会

8日, 22日

14:30 ~ 14:50 幼児向けおはなし会

14:55 ~ 15:10 つくってみよう やってみよう

29日

14:30 ~ 15:00 赤ちゃん絵本でふれあう

(赤ちゃんの保護者のためのブックスタート講座)

日曜日: 14:30 ~ 15:00 幼児向けおはなし会

15:15 ~ 15:45 小学生向けおはなし会

・場所: 「こども図書館 おはなしの家」



□ 図書館員のひみつの本棚《No.148》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、昨年度に引き続き毎月素敵な本を紹介してくださる楽しいコーナーです。

今回の本は、ほらふき男爵が語る奇想天外な冒険談です。ほらふき男爵の話は絶対にありえないという話ばかりですが、読んでいてとても楽しくなります。

子どもと親が同じ本を読んで、どんなところがおもしろかったかなど親子で語り合うのにちょうど良い本だと思います。

☆ 今月の本

『ほらふき男爵の冒険』

・ミュンヒハウゼン 著/高橋 健二 訳 偕成社文庫 1983年 756円

・斉藤 洋 文/はた こうしろう 絵 偕成社 2007年 1080円

・ビュルガー 編/石崎 洋司 訳/片浦 絵 集英社みらい文庫 2015年 756円

☆ あとがき

夏休みに学校の図書館を訪問すると、学校の廊下がとてもピカピカです。きっと、先生や用務員の人が、暑い中、一生懸命廊下のワックスがけをされたのでしょう。また、図書館の掲示物を作成したり新しい本を購入したりしている学校もありました。図書館に来た子どもたちの喜ぶ姿が楽しみです。

第2回TRPG交流会では、普段あまりしゃべらない生徒も、他校の生徒と楽しく会話していたそうです。このTRPGは、本の活用を促すだけでなく、コミュニケーション能力を培うことにも効果があると改めて分かりました。

発行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第148回

今月は世界でも有名なほら話です。

『ほらふき男爵の冒険』

〈お勧め年齢〉

乳幼児—— 低学年—— 中学年☆☆ 高学年☆☆☆ 中学生☆☆
高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

〈本の紹介〉

18世紀に実在したミュンヒハウゼン男爵が語ったほら話の数々。

たった一発の弾丸で10羽以上の鳥を仕留めた話や、ロシアでクマに襲われた際、地面に落としてしまったナイフを木の上からおしっこで拾い上げた話、^{まがいこつ}頭蓋骨を半分持ちあげて頭からお酒を蒸発させる将軍の話など、奇想天外で愉快的な話ばかり。

「ふつうのお話では面白くない！」という人はぜひ読んでみてください！

〈子どもに手渡す時のポイント〉

ミュンヒハウゼン男爵の語った話は、本人が生きていた18世紀から、本人以外の人々によって、多種多様な内容で出版されてきたという長い歴史があります。日本でも、本によって少し内容が異なったり、現代の子向けの書き換えが行われていたり、様々な内容の本が出版されています。ミュンヒハウゼン男爵の奇想天外な愉快さを損なわず、読み手が読みやすいものを手渡してあげてください。今回は偕成社と集英社の書誌を以下に載せておきます。(書影左から順に)

○ミュンヒハウゼン 著／高橋 健二 訳 偕成社文庫 1983年 756円

○斉藤 洋文／はた こうしろう 絵 偕成社 2007年 1080円

○ピュルガー 編／石崎 洋司 訳／片浦 絵 集英社みらい文庫 2015年 756円

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

